

G-1:知的財産

開催日時・会場 9月14日(火曜日) 15:50-17:20 WEB-ONLY

先端技術と医学の交差点 ～出口を見据えた医工連携研究とは

医工連携というキーワードが作られてより、長い年月が経過しました。これまで医学と工学の交流は理想論と異なり、多くの挫折と失敗を繰り返してきました。

ところが最近になって、医学と工学を融合する分野を立ち上げる大学が出現したほか、医療機器開発に大学が参加するなど、医工連携は新しいステージへと進歩しています。このような進歩を遂げた背景はどのようなものであったのでしょうか？

このセッションでは、医療分野において先進的な研究開発活動を行っている研究者から、医療を題材とした研究事例をご紹介します。医工連携による医療機器開発の事例を紹介し、医学と工学が協働する望ましい連携の形や実用化・知財戦略等の出口を見据えた上手な連携研究の進め方などについて議論しながら、昨今重要性を増しているURAの役割について理解を深めてみたいと思います。岡山大学病院 櫻井淳氏は、中小企業とともにやってきた医療機器開発事例を紹介し、高度医療機器開発における大学病院の果たす役割について解説します。日本ユニシス株式会社 宮村佳典氏は、Well-beingの構成要素PERMAを題材にしたITの活用研究を通じ、Well-beingへのIT技術の貢献のあり方とその将来展望について紹介します。

今後の医工連携研究を効果的に進めるためには、医療者と工学技術者の連携する新しいチーム構築の仕方、連携研究の進め方、知的財産のあり方など個人の研究者では担えない役割があります。2人の登壇者を交え、医工連携研究の発展に向けたURAの新たな役割について考える場としたいと考えています。

オーガナイザー

古賀 敦朗:鳥取大学・研究推進機構・URA准教授



専門は分子生物学。大学院修了後、製薬企業において創薬研究、バイオベンチャーではゲノム疫学研究に従事し、2013年より現職。研究者と企業のつなぎ役として、創薬、医療機器、臨床研究など医療に関わる多数の研究開発を企画・推進している。

講演者

櫻井 淳:岡山大学病院・新医療研究開発センター 次世代医療機器開発部・部長・病院長補佐



鳥取大学医学部を2002年に卒業後、放射線診断専門医として診療にあたるも、臨床医の発想による医療機器開発の必要性を痛感。(独)医薬品医療機器総合機構に入職し、医療機器の薬事審査に携わる。2015年より岡山大学病院にて医療機器の研究開発に従事。企業の医療機器業界参入支援も積極的に進めており、医療機器開発勉強会の開催、企業の医療機器開発への助言指導など数多く行っている。

宮村 佳典:日本ユニシス株式会社・総合技術研究所・ 主席研究員



東北大学大学院医学研究科修了、医博(PhD)。名古屋大、NIH、UC Davis、理研、かずさDNA研などで色素異常症や日焼けの研究、遺伝子検査商品の開発などを行う。2015年の日本ユニシス(NUL)入社後、匂い嗜好に関わる人間特性を探索すると共に、「IT企業であるNULが取り組む研究はWell-beingをどのように支え、その進歩により一人ひとりの未来の生き方はどのように広がるか」を講演や寄稿により紹介し、「幸福に貢献するIT」を世に広めようとしている。